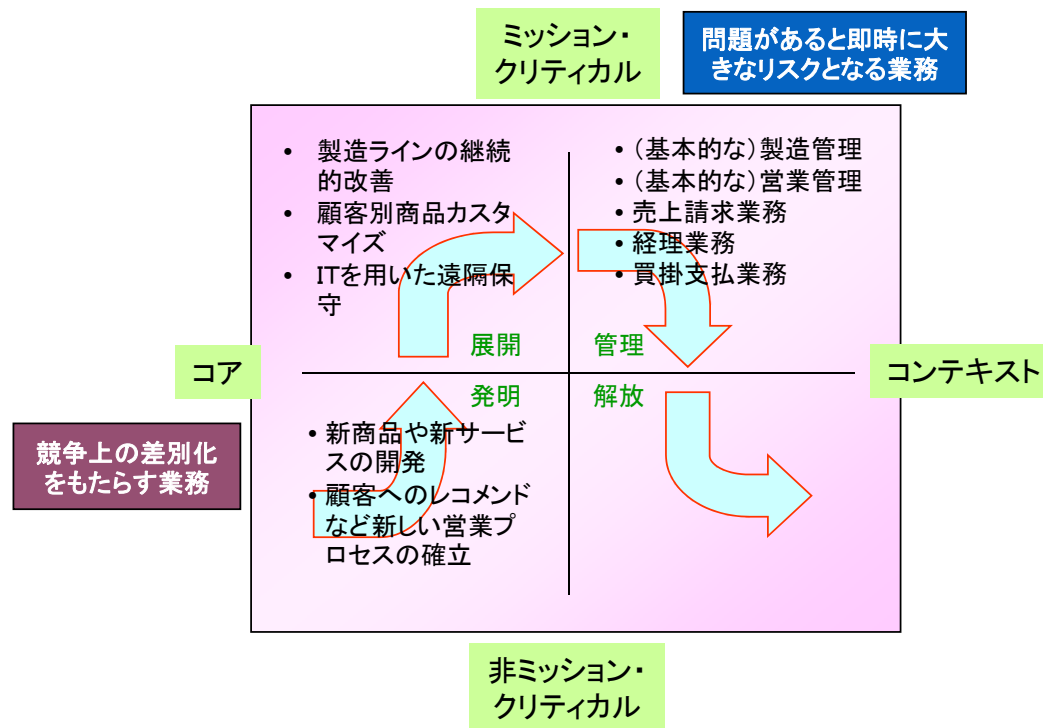


## J.ムーアによる業務の分類



- 企業内の様々な業務は、「企業に差別化をもたらすか」(＝コアであるか)と「問題があると即時にリスクとなるか」(＝ミッションクリティカルであるか)により、分類できる。
- 新しいビジネスモデル(＝イノベーション)は、左下の象限から始まり、差別化が利益を産む左上の象限を経て、競合他社の模倣により右上の象限に移動する。
- 右上の象限に移動した業務では、標準化、自動化などにより業務リスクを排除することで、右下の象限に移動する。
- スキルある要員などの経営資源は右上の象限に滞留しがちである。また、すでに差別化をもたらさない業務であるため、投資効率も徐々に低下してくる。  
この象限にある滞留資源を左下・左上などに解放することが経営上の重要な課題となる。

出典:「ライフサイクルイノベーション」ジェフリー・ムーア  
(図内各業務は作者によるイメージです。実際の経営環境により、同じ業務でも異なる象限に分類されます。)